

那覇ハーリー

練習も熱くなってきました

令和7年度の新学期がスタートしたばかりですが、5月3日(土)に実施される那覇ハーリー第51回大会に向けて早速スタートしています。

早朝から本校のプールでは、毎年恒例になったドラのリズムに合わせて、「ハイ!!」のかけ声が響き渡り、エーク(櫂)をしっかりと握り、水しぶきを上げながら力一杯、漕ぐ様子が見られます。

地域の指導者の大城貞彦さんのご指導の下、男女のグループに分かれ、男子は昨年の悔しい準優勝からトップを目指し、女子も今年度こそは予選を突破し、決勝進出!と気合いを入れて頑張っています。

先週の19日(土)には、女子のグループを中心に、実際の海上でのハーリー乗船を体験し、28日(月)には、ハーリー選手激励会が行われました。

また、29日(火)には、男子を中心に会場練習を行うこととなっています。

本番の5月3日(土)の石嶺中の男子の出漕は、No.5レース:11時15分頃(1コース黒)で、女子の出漕は、No.8レース:11時45分頃(1コース黒)で、時間も近いので、応援もよろしくお願いします。

**石嶺中の新たな歴史を切り開き、
次の景色を見よう!!**



錬心

石嶺中
学校便り

第2号

R 7. 4. 28
発行：石嶺中
校長 馬上 晃



石嶺中学校は好きですか？

自分の学校を愛する心(愛校心)を育てる

教育課程特集

学校教育で教える大切なこと



「母校」という言葉には、単に出身校という意味だけではなく、その学校は自分を育ててくれた親であるという意味が込められているそうです。

学校で授業で勉強したこと以外に、仲間や先生方との会話や出来事、過ごした教室や運動場・体育館、図書館がそれぞれの人生の中では、皆との共通の貴重な時間として、一生残っていきます。生徒一人ひとりの人生の中での貴重な時間が今この瞬間も流れているのです。

これまでも石嶺中の良き伝統は、先生方や先輩たちの努力によって創られて、後輩が、それを継承し、更に協力し合って、よりよい校風へと発展させてきました。

今、嶺中生として、一人ひとりが自分に与えられた役割と責任を果たすことや、先生方や保護者地域の方々から様々な指導を受けたり、支えられたりしながら、人との関わりや大切さを学び、協力してより良い学校に発展させることがこの後も引き継がれていきます。

子どもたちに、自分の学校を愛する心(愛校心)を育てることは、学校教育の基礎の極めて重要な部分だと思います。学校を愛する心と、自分自信に誇りや自己肯定感を高めていくことは、密接に関連しています。

学級や学校では、生徒一人ひとりがその役割と責任を果たすことや、先生や他の大人から、様々な指導を受けたり支えられたりしながら、人間関係を深め、協力して生活することを通して相手を(リスペクト)尊重することや感謝の気持ちが育まれていきます。

学級担任や各教科の先生の指導のもとに、授業やいろいろな活動に意欲的に取り組むには、生徒同士、生徒と先生や関係者の方々が、互いに信頼関係をもち、尊敬と愛情、親しみの気持ちを深める態度を育てることが大切です。そのことによって協力体制が整い、よりよい学級や学校生活への土台が築かれます。

学校の歴史や伝統に接する機会を増やしたり、生徒同士、生徒と教師や学校の人々との人間関係を深めたりする様々な体験を通して生徒に学校に対する愛着やよりよい校風の樹立と発展に努める態度を育てよう支援する必要があります。当然ながら、こうした指導の根底には、教師自らが進んで生徒一人一人に向ける厚い信頼と深い愛情に裏打ちされた温かいまなざしと慈しみのある態度で接していくことが欠かせません。

